



# 助産師の仕事と 助産師になるための学習



北海道立旭川高等看護学院 助産学科

## 助産師の概要

保健師助産師看護師法では「助産師とは、厚生労働大臣の免許を受けて、助産又は妊婦、じよく婦若しくは新生児の保健指導をなすことを業とする女子をいう。」とあります。

助産師の語源は、“Midwife=with women”です。「女性とともにある」という意味があります。

助産師は奈良時代の“女医”に始まり、産婆として江戸時代から女子の職業として栄え、明治時代に入って日本初の女子教育として教育制度が整備されました。明治 32 年に「産婆規則」で産婆という身分が確立し、昭和 17 年に助産婦へ、さらに平成 14 年に現在の助産師という名称に変わってきました。

出産への考え方も時代とともに変化し、数少ない出産体験を快適で人間らしい満足感のある出産体験としたい、家族とともに迎える出産をしたいなど、出産に対するニーズは多様化してきました。世の中が移り変わっても、その時代の医療技術の進歩に合わせて助産に対する新しい知識や技術を取り込みつつ、常に女性と新しい生命を守り支え、家族の健康や幸福に寄与することを使命とし、助産師はその職責を果たしてきました。

助産師は母子のみならず、女性の生涯における性と生殖にかかわる健康相談や教育活動を通して家族や地域社会に広く貢献しています。その活動は育児支援、思春期女性へのケア、不妊の悩みを持つ女性へのケア、中高年女性へのケアなどを多岐に渡ります。助産師は、病院、診療所、助産所、市町村保健センター、教育・研究機関、行政機関、母子福祉施設、その他の助産業務を必要とするサービスの場で業務を行うことができます。開業権を持ち、助産所を開設することができ、地域の母子保健の向上に貢献しています。しかし、助産師はまだまだ不足していて、周産期の診断や助産ケアの質の向上、ライフサイクル各期の対象への健康教育などの業務の拡大など課題も多く、今後も発展の可能性のある職業といえます。

## 学院設置目的及び使命

北海道立旭川高等看護学院は、保健師助産師看護師法（昭和 23 年法律 203 号）に基づき、保健師、助産師又は看護師としてそれぞれ必要な専門的知識及び技能を修得させるとともに、その徳性を養うことを目的とし、医療及び公衆衛生の普及向上に寄与することを使命としています。

## 助産学科の教育理念

本学院は人間の存在と生命を尊重し、人間理解を追求するとともに豊かな人間性を養い、看護専門職者として、北海道の保健医療福祉に貢献する人材を育成することを目指す。

助産とは生命を尊重し、専門的知識や経験、人的・物的資源、身体的・心理社会的サポートなどを活用しながら、人々が本質的にもっている能力を最大限に発揮させる行為である。助産師は母子のみならず、女性の生涯における性と生殖にかかわる健康相談や教育活動を通して家族や地域社会に広く貢献する。

そのため、倫理的価値観及び助産の基礎的知識・技術を修得し、安全で質の高い助産実践能力を身につけ、さらに広い視野で社会の変化をとらえ、期待される役割を認識するとともに積極的に社会に貢献できる人材を育成する。

## 教育目的

助産師として必要な専門的知識・技術・態度を修得し、対象や社会のニーズに応じた活動ができ、質の高い助産を提供できる人材を育成する。

## ディプロマポリシー及び卒業生の特性

教育目標		ディプロマポリシー	卒業生の特性	
1	女性と子ども並びに家族の尊厳と権利を尊重する倫理観を養う。	豊かな人間性と高い倫理観をもち、生命を尊重できる態度を身につける。	1)	自分を客観的に捉える姿勢を持ち、自己の傾向や到達状況・課題に気づき、解決方法を考えることができる。
			2)	人間理解を追求する姿勢とともに、他者を尊重して人間関係を深めることができる。
			3)	生命・人間としての尊厳と権利を尊重する態度を形成し、助産師の倫理綱領に基づいた行動がとれる。
2	妊産褥婦および胎児・新生児の健康状態を診断し、妊娠・分娩・産褥がより健康で安全に経過し、育児を主体的に行えるよう、根拠に基づき支援する能力を養う。	マタニティサイクルにある母子とその家族を全人的に理解し、科学的根拠に基づく適切な判断と、解決をしていくための実践能力を身につけている	1)	妊婦・産婦・褥婦及び新生児の特性を踏まえて、健康診査ができる。
			2)	妊婦・産婦・褥婦及び新生児の助産診断ができる。
			3)	助産診断に基づいて妊婦・産婦・褥婦及び新生児に必要なケア・指導ができる。
			4)	異常の早期発見及び緊急処置・産科手術について理解を深め、助産師の役割を認識できる。
			5)	異常な経過をたどった対象及び家族の身体的・心理社会的側面を理解し、ケアのあり方を考えることができる。
3	性と生殖をめぐる健康に関する課題に対して、継続的に支援する能力を養う。	リプロダクティブヘルス/ライツの視点から女性のライフステージ各期に対応した健康を支援するための基礎的能力を身につける。	1)	ライフステージ各期の特性について理解を深め、健康生活に必要なケアと指導のあり方を考えることができる。
			2)	対象に適切な受胎と避妊に関する情報を提供し、家族計画指導ができる。
			3)	不妊の悩みをもつ対象とその家族に対する検査や治療、相談について理解することができる。
4	安心して子どもを産み育てるために、多職種と連携・協働しながら、個人及び社会にとって必要な地域の社会資源の活用や調整を行う能力を養う。	地域母子保健活動を担うチームの一員として助産師の役割を認識し、多職種で連携・協働できる基礎的能力を身につける。	1)	地域における子育て世代を包括的に支援する必要性が理解でき、その支援のあり方を考えることができる
			2)	母子の継続ケアとして、関係職種・機関の専門性及び連携・協働していくことの必要性について理解できる。
			3)	災害など緊急時の管理システムを理解できる。
			4)	周産期におけるリスクマネジメントの特徴を踏まえ、医療安全体制について理解することができる。
5	助産師の役割・責務を自覚し、専門職として自律する能力を養う。	専門職業人としての生涯学習及び研究的態度を身につける。	1)	助産の専門性を認識し、助産師としてのアイデンティティを形成できる。
			2)	継続的に自己研鑽することで、助産の質の向上を目指すことができる。
			3)	科学的根拠に基づく、助産実践を行うことができる。

# 教育課程

授 業 科 目	指定規則		学 則							
	単位	時間数	単位	必修	選択	時間数	備 考			
<b>基礎助産学</b>	6		6	○		150				
助 産 学 概 論								(2)	○	(30)
ウ ィ メ ン ズ ヘ ル ス ケ ア								(1)	○	(30)
周 産 期 の 生 殖 生 理								(1)	○	(30)
母 子 の 健 康 科 学								(1)	○	(30)
家 族 心 理 ・ 社 会 学	(1)	○	(30)							
<b>助産診断・技術学</b>	10		10	○		255				
助 産 診 断 ・ 技 術 学 総 論								(1)	○	(15)
妊 娠 期 の 助 産 診 断 ・ 技 術 学								(1)	○	(30)
分 娩 期 の 助 産 診 断 ・ 技 術 学								(2)	○	(60)
産 褥 期 の 助 産 診 断 ・ 技 術 学								(1)	○	(30)
新 生 児 期 の 助 産 診 断 ・ 技 術 学								(1)	○	(30)
助 産 過 程 の 展 開								(1)	○	(15)
健 康 教 育 論	(2)	○	(60)							
家 族 計 画 論	(1)	○	(15)							
<b>地域母子保健</b>	2		2	○		30				
地 域 母 子 保 健 学								(2)	○	(30)
<b>助産管理</b>	2		2	○		30				
助 産 管 理 学								(2)	○	(30)
<b>研究</b>			2	○		45				
助 産 学 研 究								(2)	○	(45)
小 計	20		22			510				
<b>臨地実習</b>	11		13	○		585				
助産学実習										
妊 娠 期 実 習								(1)	○	(45)
分 娩 期 実 習								(4)	○	(180)
産 褥 期 ・ 新 生 児 期 実 習								(2)	○	(90)
継 続 事 例 実 習								(2)	○	(90)
ラ イ フ サ イ ク ル 期 実 習								(1)	○	(45)
地 域 母 子 保 健 学 実 習								(2)	○	(90)
助 産 管 理 学 実 習	(1)	○	(45)							
小 計	11		13			585				
合 計	31		35			1095				

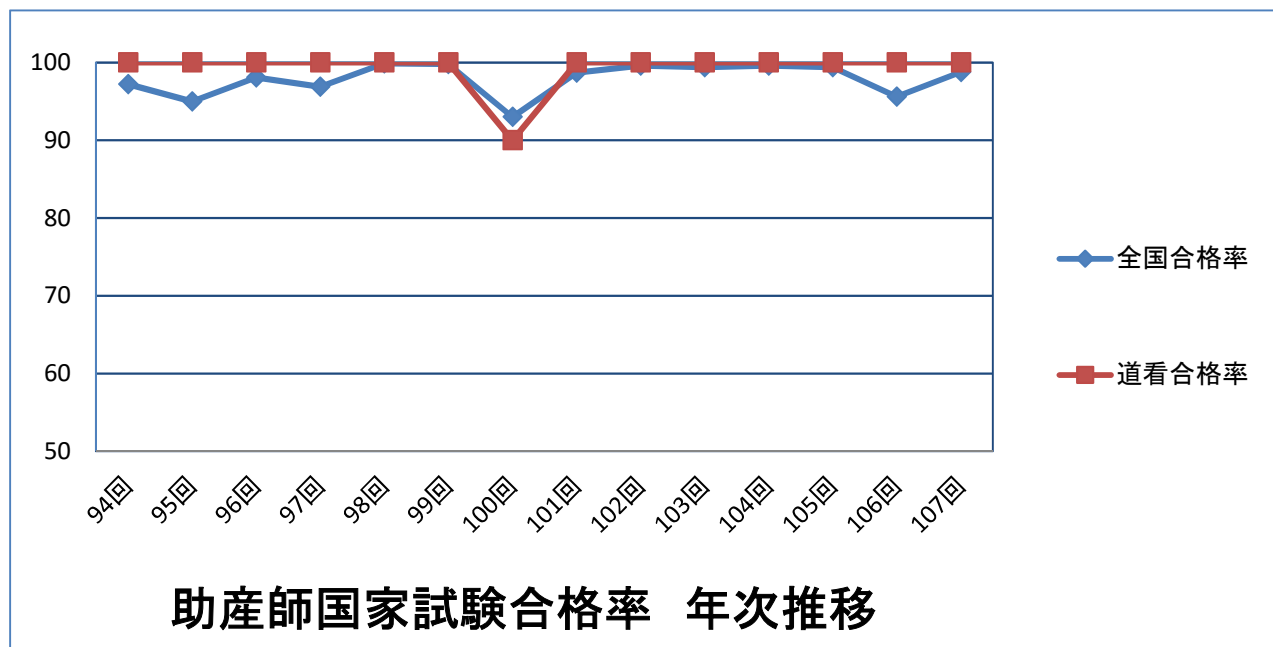
## 年間スケジュール

月	学院行事・課外活動	実習関係
4	入学式、オリエンテーション 健康診断、避難訓練・護身術	
5	入学時ミーティング	
6		第1期実習オリエンテーション、 施設見学
7		第1期実習（4週間）
8	夏期休暇（2週間） 第2回ミーティング 学内学習	第1期実習終了  第2期実習オリエンテーション
9		第2期実習（9週間）
10		
11	学内学習	第3期実習オリエンテーション 第3期実習開始（4週間）
12	冬期休暇（2週間）	第3期実習終了
1	学内学習、自己研修	実習報告会
2	自己研修、国家試験受験 学内学習	研究発表会 健康教育論演習（両親学級）
3	卒業期ミーティング、卒業式 国家試験合格発表	

## 助産学科注目ポイント

1 就職率 100%

2 国家試験合格率 ほぼ 100%



3 北海道で唯一の道立助産師養成所

4 充実した授業・演習・実習により、身につく実践力

学院の専任教員以外にも、旭川医科大学病院の医師、実習病院や助産所に勤務する助産師が非常勤講師として授業や演習を行っています。

道内各地の施設のご協力により、臨地実習を行っています。

正常な対象からハイリスクの対象へ、マタニティサイクル期からライフステージ各期の対象へ、病院での実習から助産所や市町村への実習へと段階を追って、助産師に必要な知識と技術を学びます。

## 令和7年度 助産学科在学中の必要経費（予定）

入学料	授業料 (年間)	合計	その他の必要経費		このうち入学時に必要な経費
			金額	内訳	
17,700 円	262,800 円	280,500 円	537,000 円	テキスト代 230,000 円 実習関連費 250,000 円 参考図書教材等 50,000 円 保険代 7,000 円	400,000 円



# 学院生活紹介



入学式



乳房管理の授業



授乳指導の演習



妊婦健康診査の演習



アロママッサージの演習



分娩介助演習



新生児蘇生法演習



継続事例報告会の様子

健康教育論演習（両親学級を企画します）



自己紹介



妊娠期のクラスではマタニティ・ヨガをしました



妊娠中のママと胎児の説明



パパ役は妊婦体験もします



最後に記念撮影